

# 松阪市男女共同参画プラン策定にかかる意識調査

## 1. 男女共同参画の意識について

問 36 次のことばについて、お聞きします。①～⑤の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

### ①「男女共同参画」

「聞いたことがある」が34.4%で最も高く、ついで「知っている」が32.2%、「知らない」が29.7%となっている。

性別にみると、「知らない」の割合は、男性が30.9%であるのに対し女性は28.2%であり、男性の方が2.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、おおむね年齢が高くなるほど「知っている」の割合が低くなる傾向がみられる。

問36①「男女共同参画」



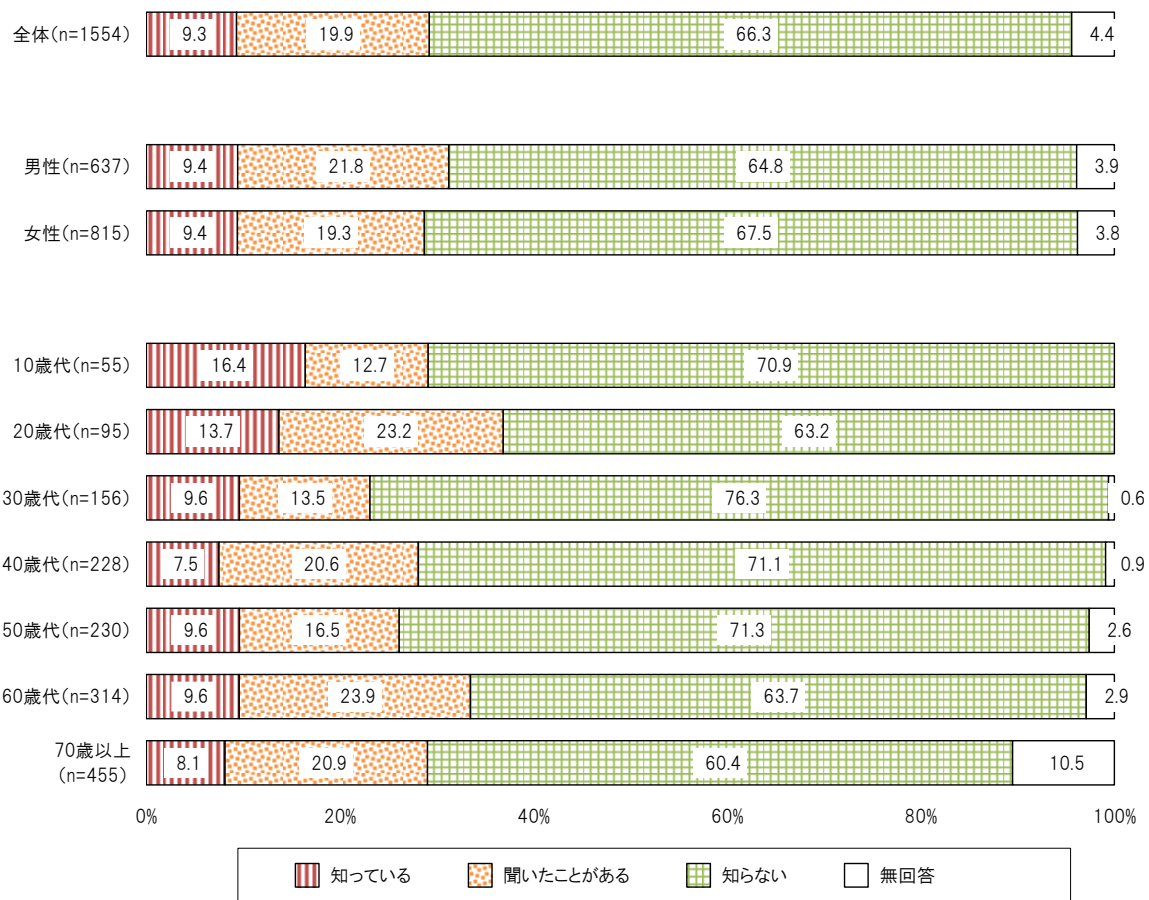
## ② 「固定的性別役割分担」

「知らない」が66.3%で最も高く、ついで「聞いたことがある」が19.9%、「知っている」が9.3%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「知らない」の割合は、30歳代で76.3%と最も高くなっている。

問36② 「固定的性別役割分担」



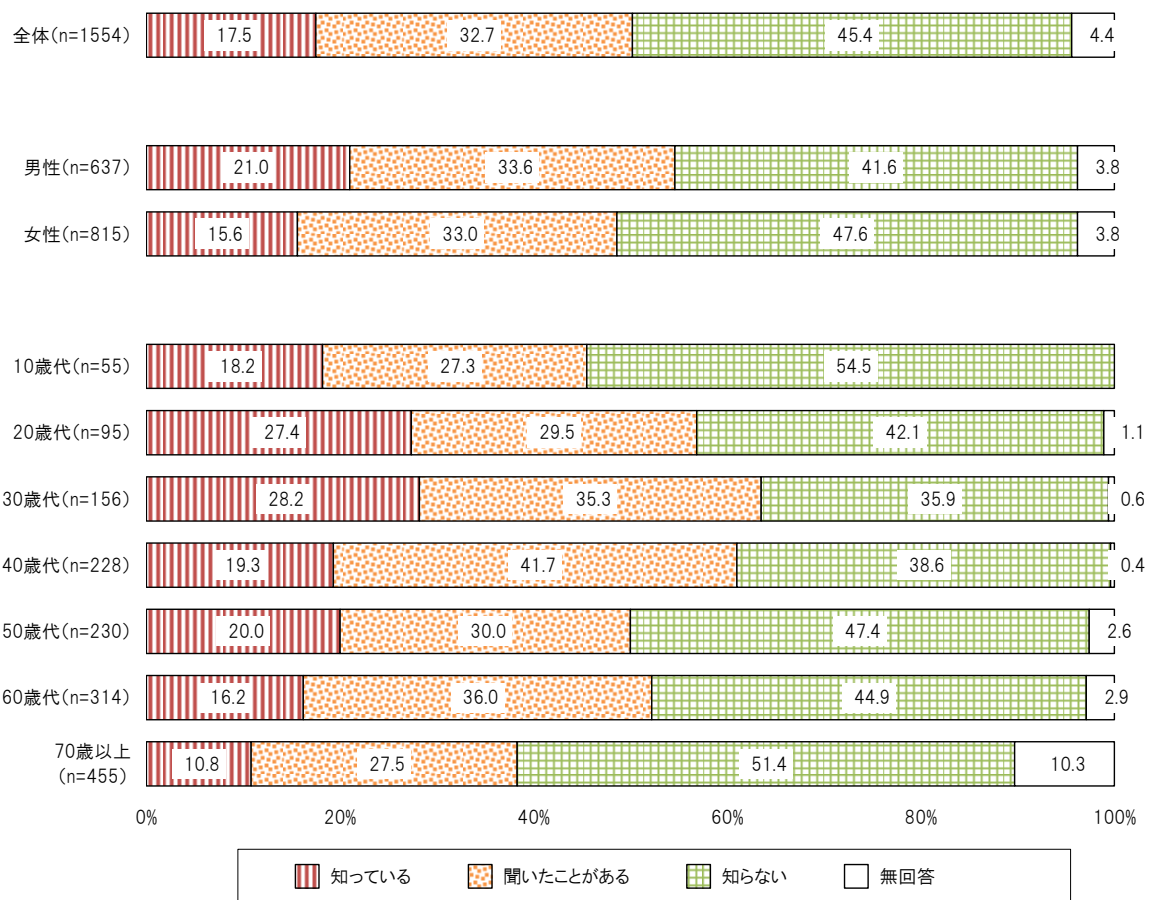
### ③ 「女性活躍推進法」

「知らない」が45.4%で最も高く、ついで「聞いたことがある」が32.7%、「知っている」が17.5%となっている。

性別にみると、「知っている」の割合は、男性が21.0%であるのに対し女性は15.6%であり、男性の方が5.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、10歳代を除いて年齢が低いほど「知っている」の割合は高くなる傾向がみられる。

問36③ 「女性活躍推進法」



#### ④ 「ワーク・ライフ・バランス」

「知らない」が46.5%で最も高く、ついで「聞いたことがある」が25.6%、「知っている」が23.6%となっている。

性別にみると、「知らない」の割合は、男性が43.8%であるのに対し女性は47.4%であり、女性の方が3.6ポイント高くなっている。

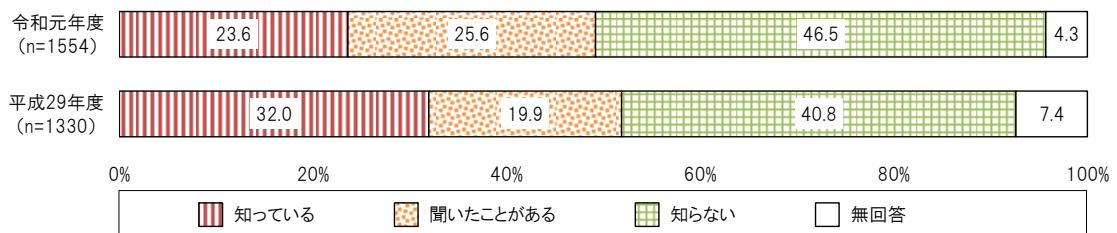
年代別にみると、おおむね年齢が低いほど「知っている」の割合は高くなる傾向がみられる。60歳代、70歳以上で「知らない」の割合が50%を超えている。

問36④ 「ワーク・ライフ・バランス」



前回と比較すると、「知っている」の割合は、前回は32.0%であったのが今回は23.6%と8.4ポイント低くなっている。

問36④ 「ワーク・ライフ・バランス」



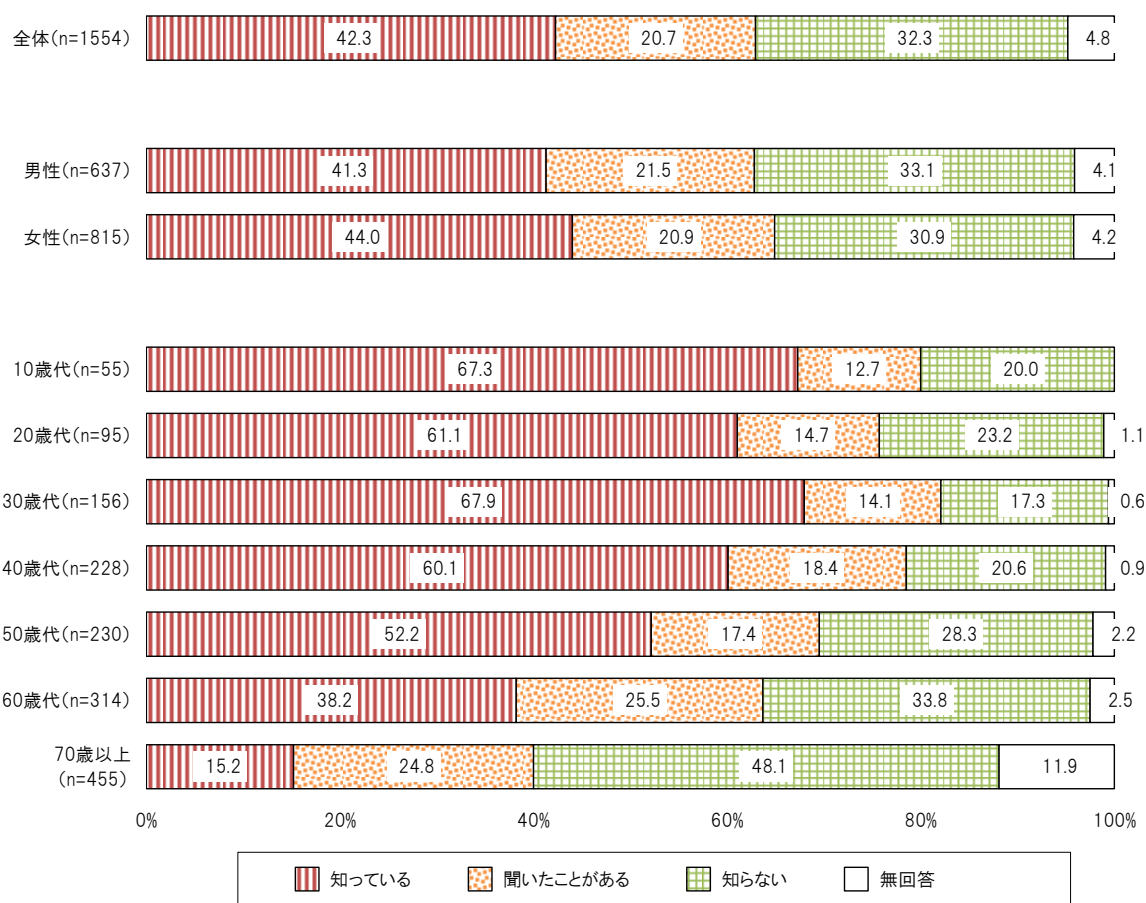
## ⑤ 「LGBT」

「知っている」が42.3%で最も高く、ついで「知らない」が32.3%、「聞いたことがある」が20.7%となっている。

性別にみると、「知っている」の割合は、男性が41.3%であるのに対し女性は44.0%であり、女性の方が2.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、おおむね年齢が低いほど「知っている」の割合は高くなる傾向がみられる。60歳代、70歳以上で「知っている」の割合が40%を下回っている。

問36⑤ 「LGBT」



問37 あなたは、次にあげる分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。  
①～⑤の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

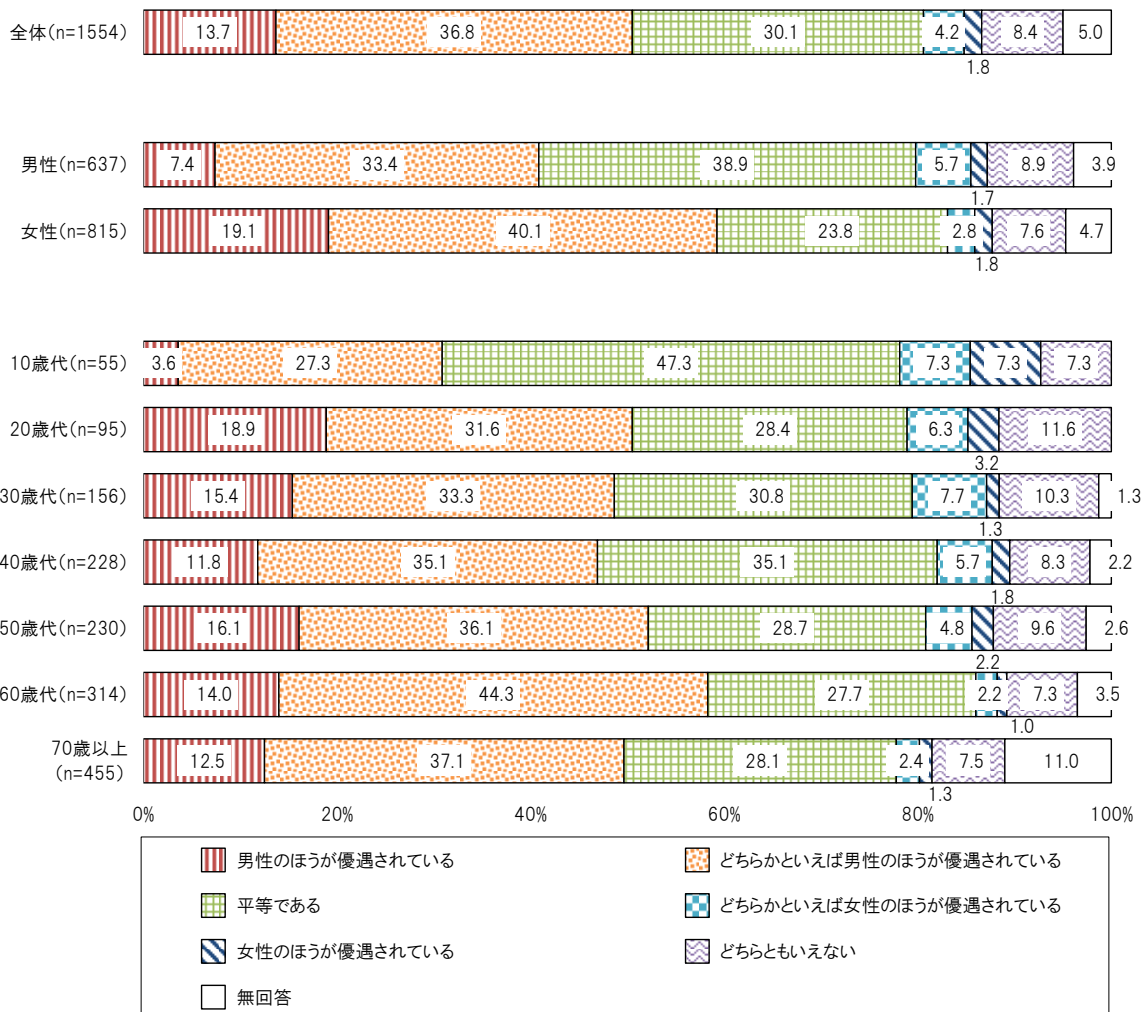
①家庭生活では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が36.8%で最も高く、ついで「平等である」が30.1%、「男性のほうが優遇されている」が13.7%となっている。

性別にみると、「男性のほうが優遇されている」の割合は、男性が7.4%であるのに対し女性は19.1%であり、女性の方が11.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計の割合は、10歳代で30.9%と大幅に低くなっており、他の年代では50%前後となっている。60歳代で最も割合が高く58.3%となっている。

問37① 家庭生活では



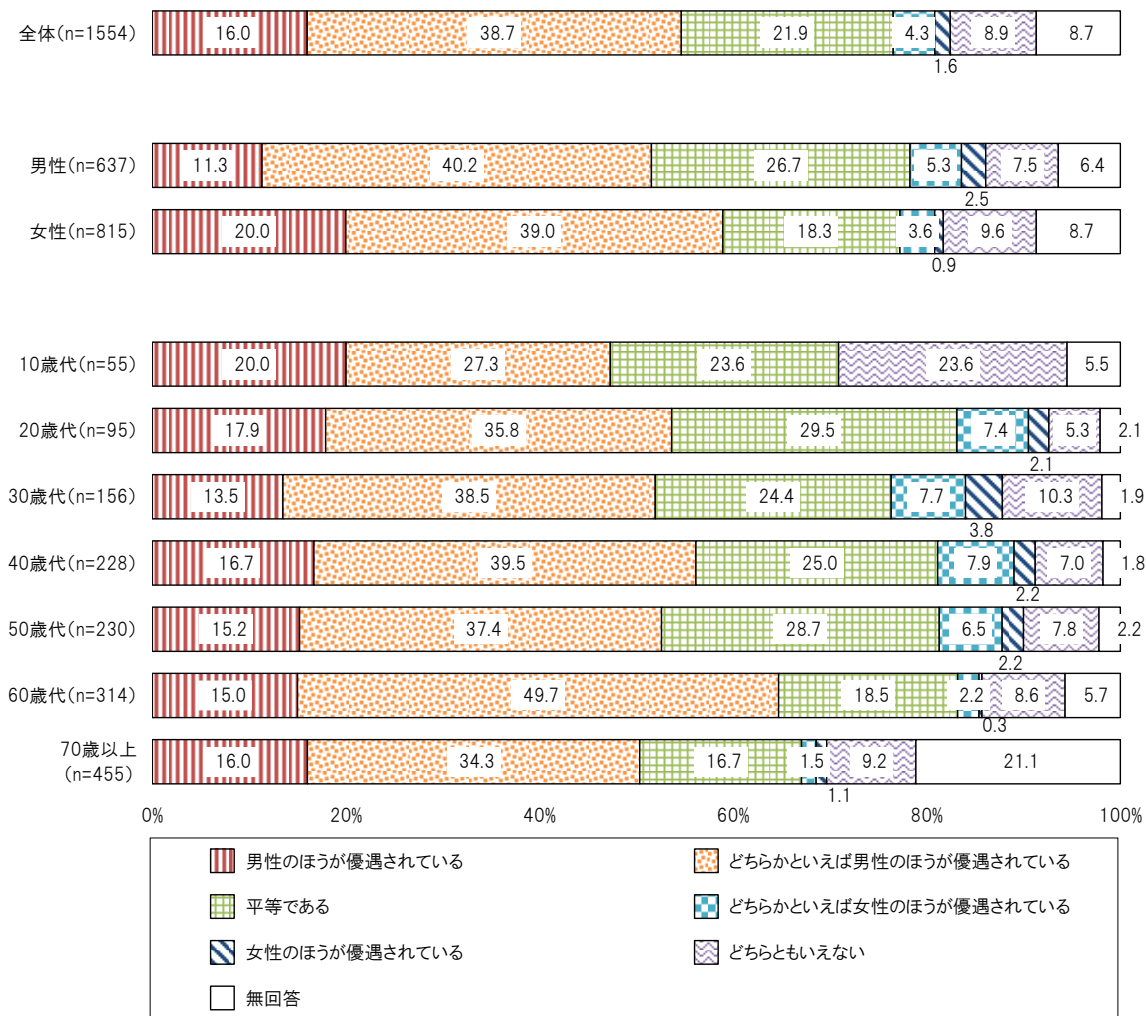
## ②職場では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が38.7%で最も高く、ついで「平等である」が21.9%、「男性のほうが優遇されている」が16.0%となっている。

性別にみると、「男性のほうが優遇されている」の割合は、男性が11.3%であるのに対し女性は20.0%であり、女性の方が8.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計の割合は、最も低いのは10歳代の47.3%であり、最も高いのは60歳代の64.7%となっている。

問37② 職場では



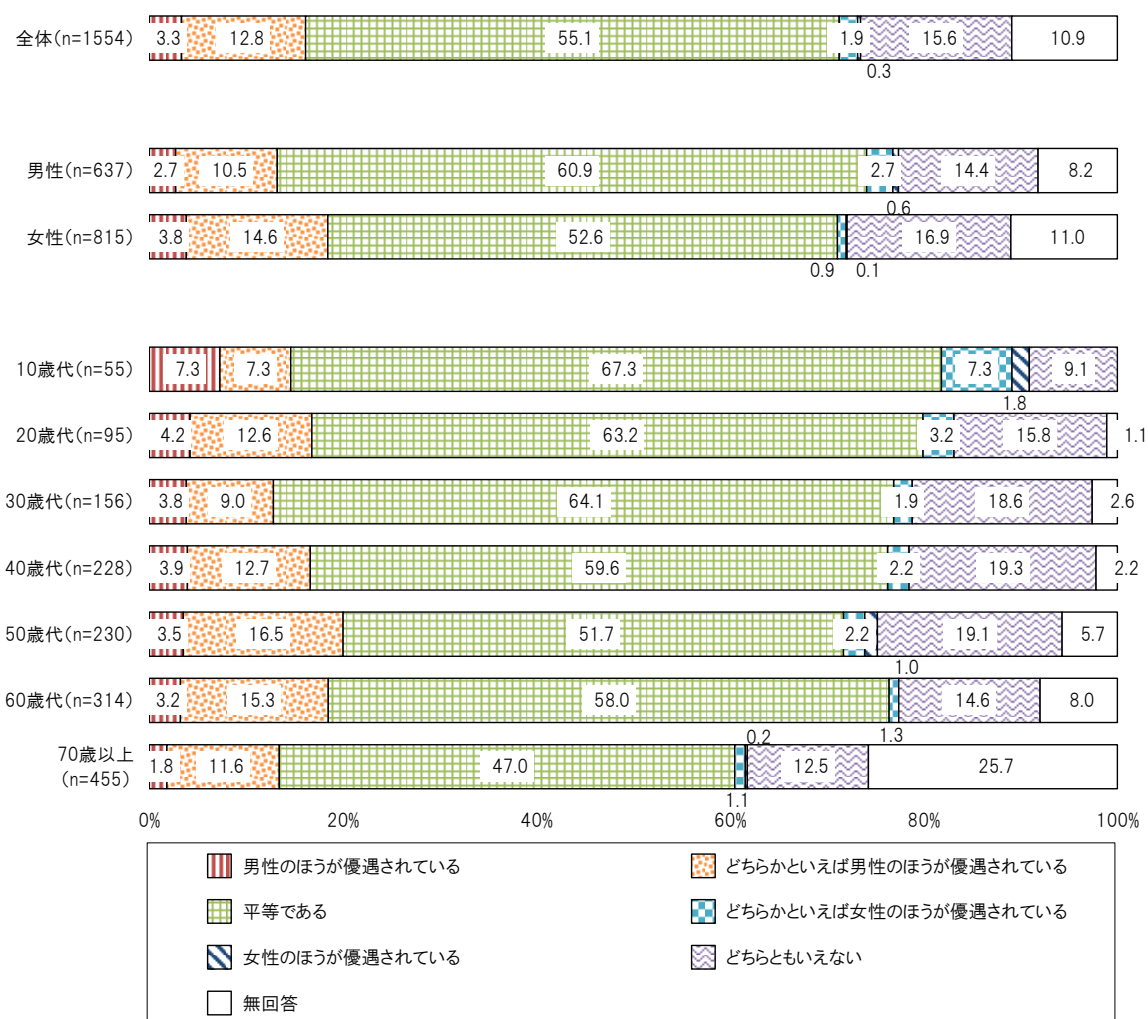
### ③学校教育の場では

「平等である」が55.1%で最も高く、ついで「どちらともいえない」が15.6%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が12.8%となっている。

性別にみると、「平等である」の割合は、男性が60.9%であるのに対し女性は52.6%であり、男性の方が8.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、「平等である」の割合は、おおむね年齢が低いほど割合が高くなっている。最も低いのは70歳以上の47.0%であり、最も高いのは10歳代の67.3%となっている。

問37③ 学校教育の場では





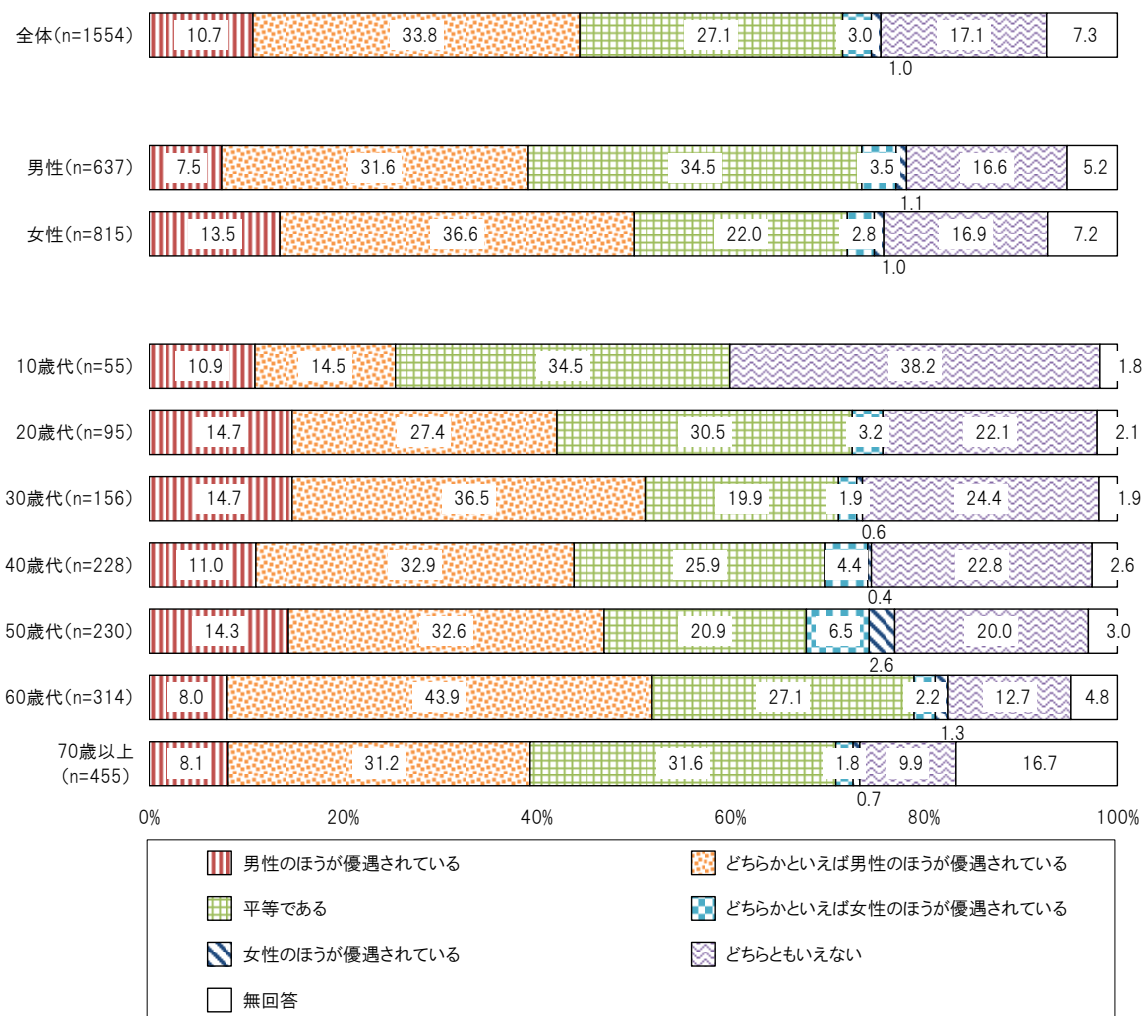
#### ④地域社会では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が33.8%で最も高く、ついで「平等である」が27.1%、「どちらともいえない」が17.1%となっている。

性別にみると、「平等である」の割合は、男性が34.5%であるのに対し女性は22.0%であり、男性の方が12.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、「平等である」の割合が30%を超えているのは10歳代、20歳代、70歳以上となっている。

問37④ 地域社会では



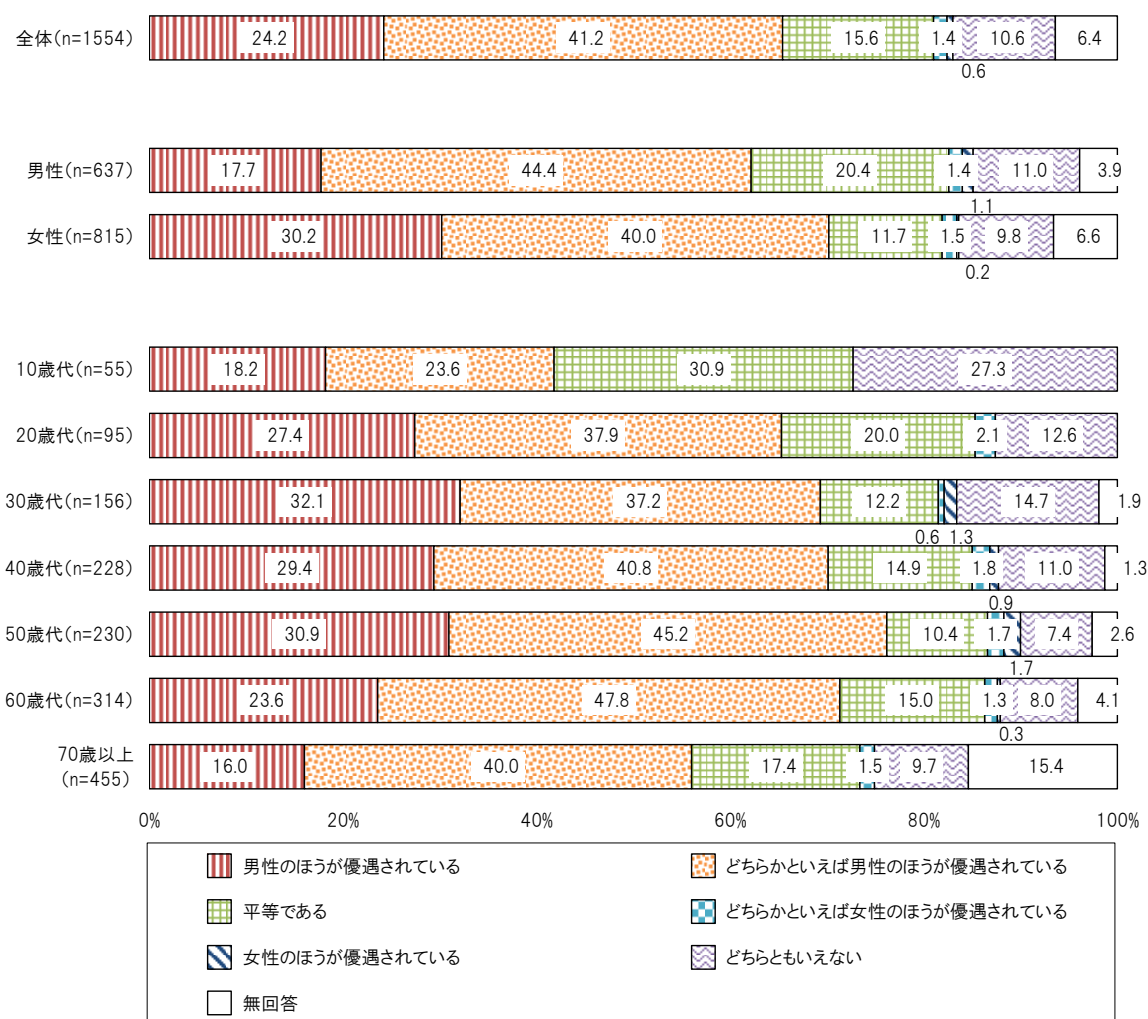
## ⑤社会通念、慣習、しきたりなどでは

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が41.2%で最も高く、ついで「男性のほうが優遇されている」が24.2%、「平等である」が15.6%となっている。

性別にみると、「男性のほうが優遇されている」の割合は、男性が17.7%であるのに対し女性は30.2%であり、女性の方が12.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、「男性のほうが優遇されている」の割合が30%を超えているのは30歳代、50歳代となっており、20%を下回っているのは10歳代、70歳以上となっている。

問37⑤ 社会通念、慣習、しきたりなどでは



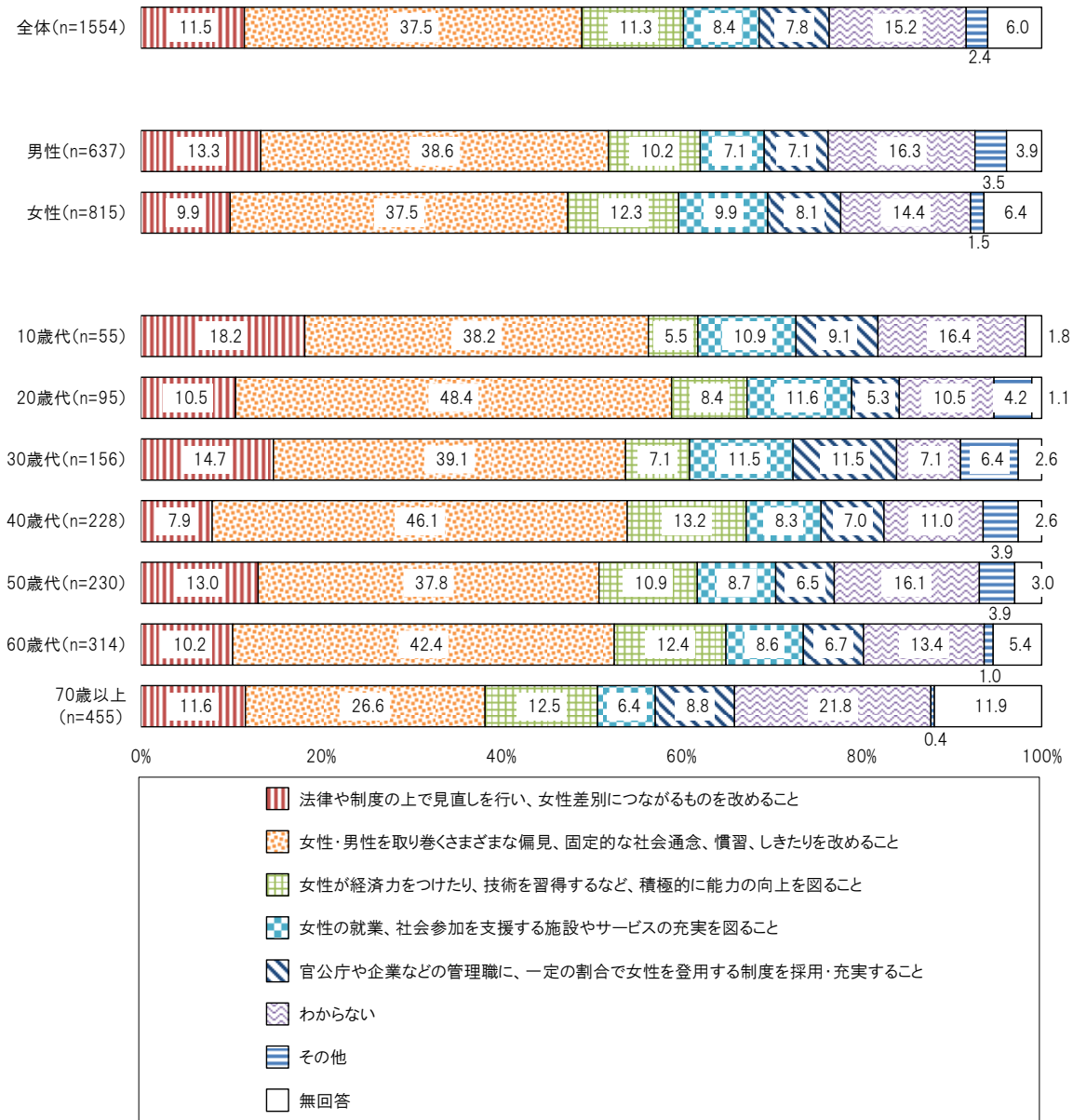
問 38 今後、社会のあらゆる分野で更に男女が平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。(〇は1つだけ)

「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が37.5%で最も高く、ついで「わからない」が15.2%、「法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」が11.5%となっている。

性別にみると、男女の間で差が最も大きかったのは「法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」であり、男性が13.3%であるのに対し女性は9.9%であり、男性の方が3.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」の割合は、20歳代で最も高く48.4%であり、70歳以上で最も低く26.6%となっている。

問38 今後、社会のあらゆる分野で更に男女が平等になるために最も重要だと思うこと



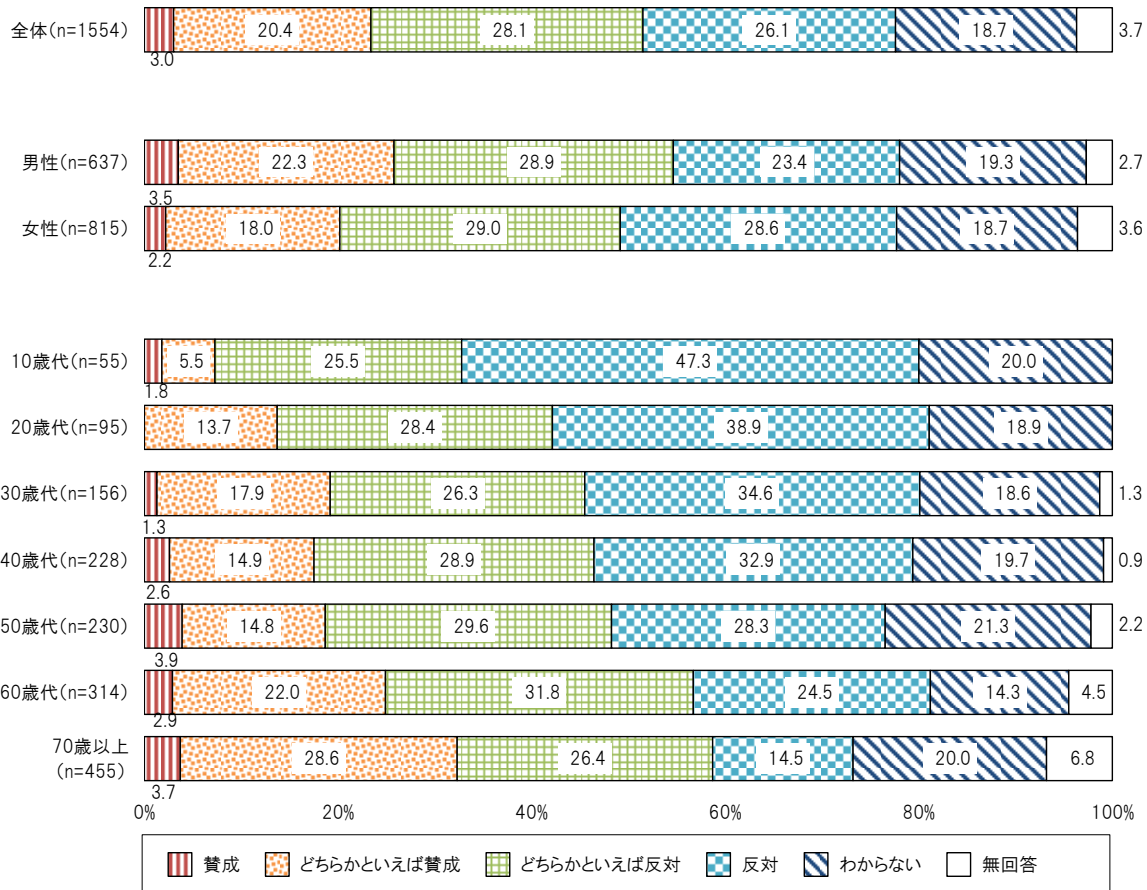
問 39 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つだけ)

「どちらかといえば反対」が 28.1%で最も高く、ついで「反対」が 26.1%、「どちらかといえば賛成」が 20.4%となっている。

性別にみると、男女の間に差が最も大きかったのは「反対」で、男性が 23.4%であるのに対し女性は 28.6%であり、女性の方が 5.2 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計の割合は、10 歳代が最も高く 72.8%であり、年齢が高くなるほど割合は低くなる傾向がみられる。70 歳以上では 40.9%となっている。

問39 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うか



問 40 あなたの家庭では、次のことについて主にどなたが行っていますか。①～③の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

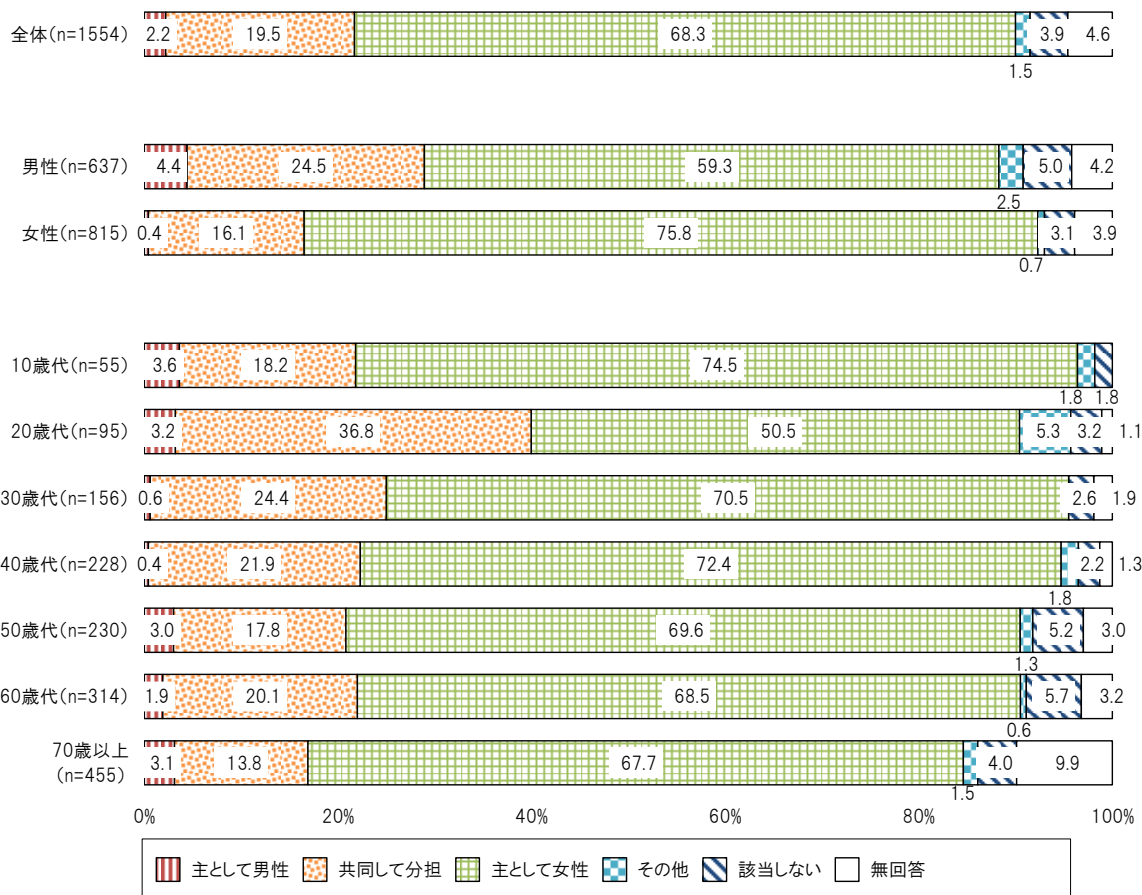
①家事（炊事、洗濯、掃除など）

「主として女性」が68.3%で最も高く、ついで「共同して分担」が19.5%、「該当しない」が3.9%となっている。

性別にみると、「主として女性」の割合は、男性が59.3%であるのに対し女性は75.8%であり、女性の方が16.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、20歳代では「主として女性」の割合が50.5%と他の年代に比べ非常に低くなっており、「共同して分担」が36.8%となっている。20歳代以外の年代では「主として女性」の割合は、7割程度となっている。

問40① 家事(炊事、洗濯、掃除など)



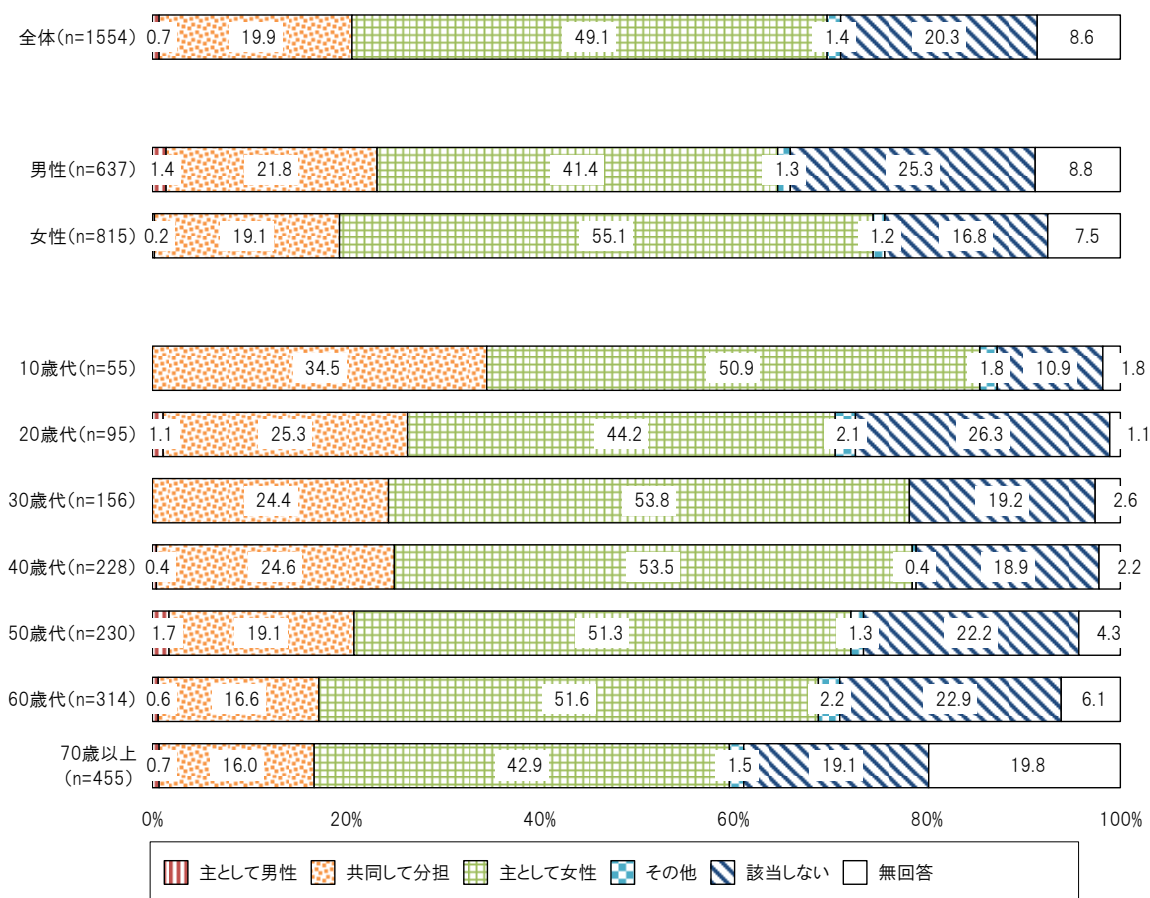
## ②育児（子どもの世話、しつけ、教育など）

「主として女性」が49.1%で最も高く、ついで「該当しない」が20.3%、「共同して分担」が19.9%となっている。

性別にみると、「主として女性」の割合は、男性が41.4%であるのに対し女性は55.1%であり、女性の方が13.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、年齢が低くなるほど「共同して分担」の割合は高くなる傾向がみられる。

問40② 育児(子どもの世話、しつけ、教育など)



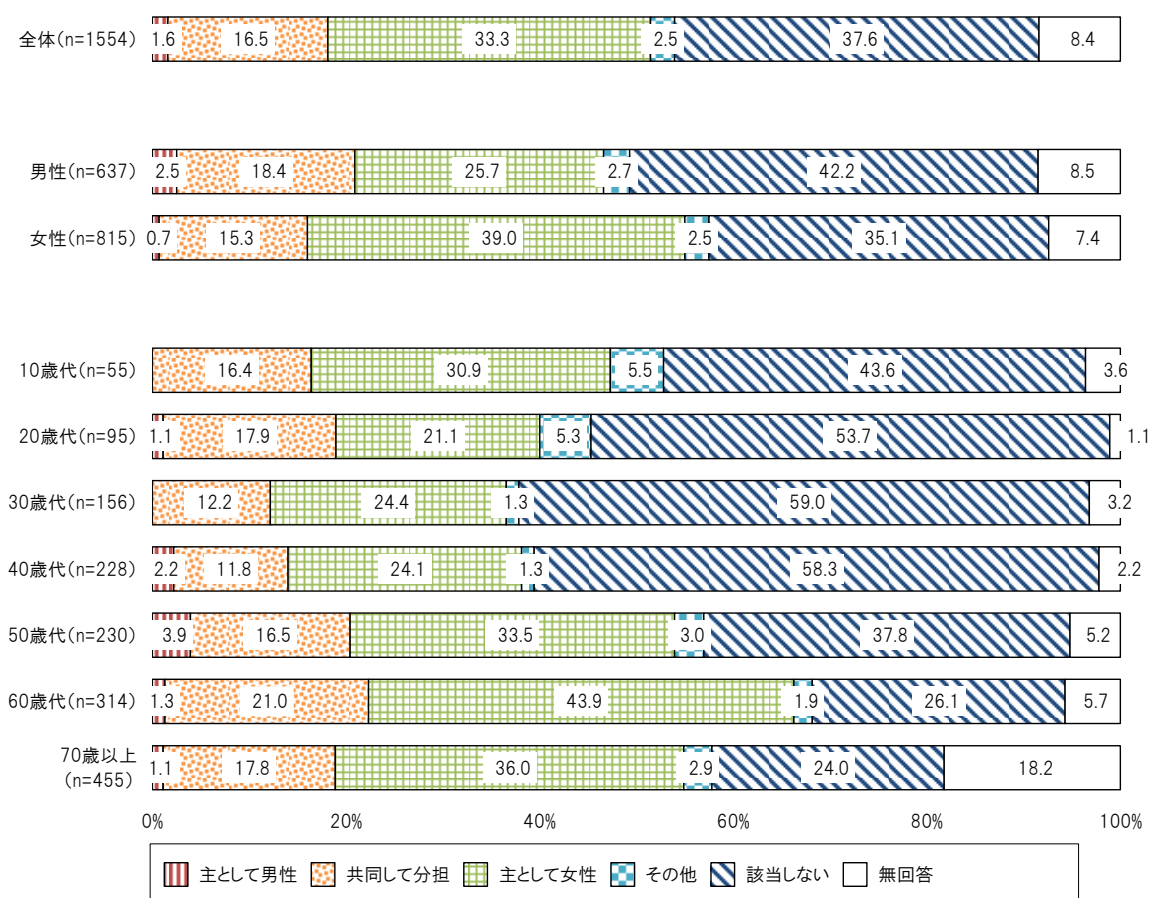
### ③介護（介護の必要な親等の世話など）

「該当しない」が37.6%で最も高く、ついで「主として女性」が33.3%、「共同して分担」が16.5%となっている。

性別にみると、「主として女性」の割合は、男性が25.7%であるのに対し女性は39.0%であり、女性の方が13.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、20歳代、30歳代、40歳代では「該当しない」が半数以上を占めている。60歳代では43.9%が「主として女性」と回答している。

問40③ 介護(介護の必要な親等の世話など)





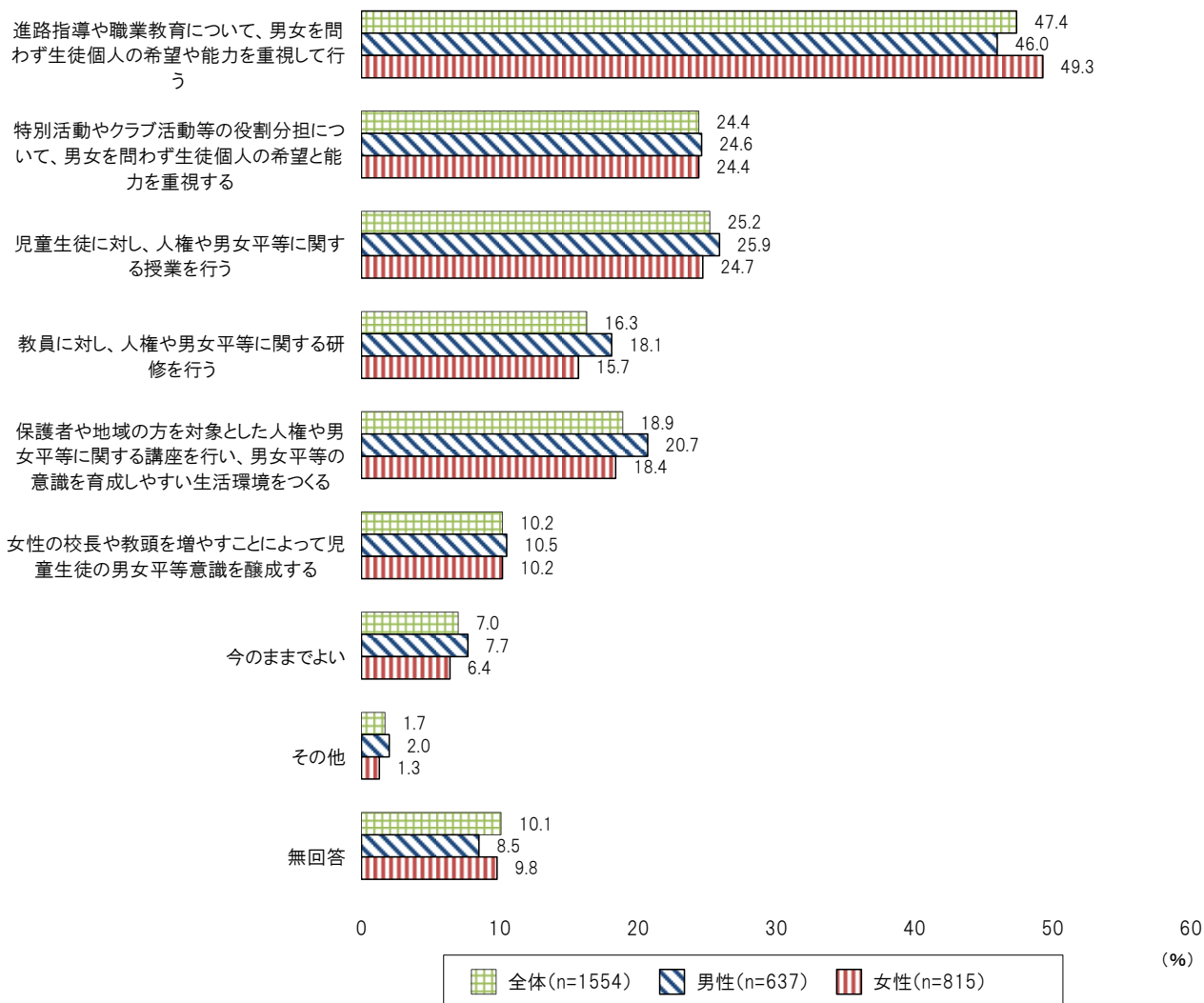
問 41 学校教育で、男女平等意識の育成のために、必要だと思うことは何ですか。(〇は2つまで)

「進路指導や職業教育について、男女を問わず生徒個人の希望や能力を重視して行う」が47.4%で最も高く、ついで「児童生徒に対し、人権や男女平等に関する授業を行う」が25.2%、「特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず生徒個人の希望と能力を重視する」が24.4%となっている。

性別にみると、割合の高い項目の順番は男女で全て一致しており、大きな差はみられない。

年代別にみると、1番目に割合の高かった項目はいずれの年代でも「進路指導や職業教育について、男女を問わず生徒個人の希望や能力を重視して行う」であった。2番目に割合が高かった項目は、10歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「児童生徒に対し、人権や男女平等に関する授業を行う」であり、20歳代、30歳代、40歳代では「特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず生徒個人の希望と能力を重視する」であった。

問41 学校教育で男女平等意識の育成のために必要だと思うこと



問41 学校教育で男女平等意識の育成のために必要だと思うこと

